

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第9回欧文会誌分科会 開催日：12月19日。出席者：荒木透幹事ほか6名。

1. 7件の論文について審査報告がなされた。
2. 1件の論文について投稿を勧誘することになった。

原子力製鉄トータルシステム委員会

第6回システム・エンジニアリング分科会 開催日：12月18日。出席者：正田主査ほか17名

1. 活動状況報告

還元ガス還元鉄製造システムの物質・熱収支の計算結果について討論された。高压での CH_4 生成と C 析出が問題となり、さらにシミュレーションを行なうことにした。

2. 50 M Wt 原子炉に接続される製鉄トータルシステムの設計条件に関する第1次アンケート結果のまとめ幹事よりアンケート回答（回答者27名）のまとめとそれに対するコメントが発表され審議が行なわれた。審議結果を整理した後、第1次の製鉄トータルシステムの設計条件として名サブシステムにフィードバックする予定である。

第7回マネジメント・コントロール分科会 開催日：12月7日。出席者：中村主査ほか7名。

1. 資料管理要領について

今までの検討結果を含め、最終案が出され、検討の結果成案を得た。次回に資料の付番要領を決定し、実施に移すことになった。

2. 原子力製鉄検討事項相互関連表について問題提起票をつくり、システム化することにした。

3. 「研究開発上必要な情報とその情報ルートおよび時期(一次)」資料については一部訂正することにし、正誤表を送付して、訂正していただくことにした。

4. 情報の授受については、さらに明確化した。

5. 情報窓口担当者会議を2月に開くことにした。

6. マネジメント・アンド・コントロールの方法について、次回に外部の専門会社より講師を呼び、Hearingを行なうことにした。

7. 外部情報の取扱いについては、次回に審議することにした。

共同研究会

第3回電気炉部会第2分科会 開催日：11月29,30日。出席者：守川部会長ほか75名。

主テーマ

1. 環境保全について

(1) 造塊場におけるダスト、ノロ、レンガ屑などの集積処理方法。

(2) 騒音対策について。

2. 省力化に関すること。

3. 自由テーマ。

以上のテーマに関して、23件の研究発表があつた。特別講演「鉄くず需給と対策」を鉄連から発表があつた。

工場見学は、愛知製鋼知多工場、大同製鋼知多工場を見学した。

標準化委員会

第5回脱炭層、硬化層深さ測定方法原案作成分科会 開催日：12月7日。出席者：田中主査ほか16名。

1. 浸炭硬化層深さ測定方法

浸炭硬化層について、第4次案が提出され今回ではほぼ原案はまとまつた。

2. 脱炭層深さおよび炎焼入硬化層測定法

浸炭硬化層がほぼまとまつたので、これにもとづいて、脱炭層深さ、および炎焼入硬化層についても次回審議することになった。

第4回焼入性試験方法原案作成分科会 開催日：12月17日。出席者：津谷主査ほか12名。

審議事項

1. 噴水口径の公差について

ISOにならい、 $12+0.5$ にすることに決定した。

2. 測定間隔について

ロックウェルかたさ測定法によると、圧コン中心が4d以上はなれていなければならないことになっているが、連続して2mm間隔に測定するという原案であると、4dとれない鋼種も出てくる。以上により、表現としては、現行のままの表現とする。

3. 許容変動値について

許容変動値について、解説に載せてほしいという要望があつたので検討を行なつた。この結果、許容変動値については、多くの要因があり、問題が大き過ぎることになり、解説に注意をうながすことになった。

材料研究委員会

第8回委員会 開催日：12月7日。出席者：長島委員長ほか16名。

1. オージェ電子分光分析結果について

昨年度試料のうち未測定であつたものについて報告が行なわれ、追加測定の後、整理報告される。

2. 脆化に及ぼす硬度の影響

靱性処理材と脆化処理材の $v\text{Trs}$ の硬度依存性を調査したところ、この材料については同等であつた。

3. 各社分担実験中間報告

各社共計画通りの進行である。追加実験試料成分の検討を次回行なうこととした。

4. 本委員会の存続と次期テーマについて本委員会の意義は大きく存続を計るべきであること、次期テーマについては本年9月頃までに検討を重ねることとした。

研究報告の検討、今後の進め方についての検討のほか、

この機会に川鉄技術研究所の見学を行なった。

鉄鋼基礎共同研究会

第 20 回運営委員会 開催日: 12月18日. 出席者: 三島委員長ほか 22 名.

1. 部会活動報告

7月~12月における5部会(強度と靱性, 固体質量, 再結晶, 遅れ破壊, 凝固)の活動状況が各部会長より報告された.

2. 特殊精錬(新部会)の活動方針について

幹事会, 本委員会と6ワーキンググループより成り, すべてのメンバーが使用できる試験溶解炉を一基購入予定であるとの報告が後藤部会長よりあった.

3. 49年度予算報告

事務局より内訳が発表され承認された. 合計は1571万円である.

4. 自由討論

おもに共同研究に伴う, ノウハウ, 発表のオリジナリティに関する問題が討論された.

.....

第 6 回凝固部会 開催日: 12月6日7日. 出席者: 郡司部会長ほか 34 名.

提出資料

凝 6-Ⅱ-1 (大阪大, 大中逸雄)

「高温壁面への衝突水滴の挙動」

凝 6-Ⅱ-2 (新日鉄, 三塚正志)

「扁平スプレイの噴射水量分布について」

凝 6-Ⅱ-3 (新日鉄, 三塚正志)

「スプレイの衝撃圧分布および熱交換量分布について」

凝 6-Ⅱ-4 (住金中研, 川崎守夫)

「スプレイ冷却帯における連铸々片の伝熱解析」

凝 6-Ⅱ-5 (日立研究所, 新山英輔)

「鋼塊の水冷条件と凝固速度」

凝 6-Ⅱ-6 (大同, 渡辺一雄)

「ピレット連続製造における熱伝達率」

凝 6-Ⅱ-7 (神鋼中研, 森 隆資)

「コンピューターによるウォーキングバー方式曲型連铸機の冷却能推定に関する, 3の問題」

凝 6-Ⅱ-8 (川鉄, 技研, 藤井徹也)

「デンドライト2次アーム間隔と凝固速度」

凝 6-Ⅱ-9 (日本鋼管, 技研, 川和高穂)

「高速鋳打込による連铸スラブの凝固厚み測定について」

凝 6-I-1 (大同, 中研, 相山太郎)

「電解による金属材料のマクロ組織検出法」

凝 6-I-2 (大阪大学, 岡本 平)

「凝固組織におよぼす Si の影響」

凝 6-I-3 (日本鋼管, 技研, 川和高穂)

「連铸スラブの凝固界面の構造について」

凝 6-I-1 (新日鉄, 名古屋, 高石昭吾)

「扁平キルド鋼塊のパーテストと凝固組織 (2)」

凝 6-I-2 (新日鉄広畑, 大橋徹郎)

「連铸々片内の溶質分布と流動」

凝 6-I-3 (日新製鋼, 丸橋茂昭)

「高 Ni 鋼中の硫化物と凝固組織および凝固条件との関連について」(2)

凝 6-I-4 (北海道大学, 松原嘉市)

「FeS 型硫化物と Fe-Mn 合金との恒温反応挙動について」

.....

第 8 回再結晶部会 開催日: 12月10日. 出席者: 阿部部会長, ほか 25 名.

講演題目と発表者は以下のとおりである.

・正極点図の描記精度の向上

新日鉄基礎研 松尾 宗次

・金属結晶粒界の準規則構造

東大生産技研 石田 洋一

・Ti 添加鋼の再結晶と集合組織

住金中研 高橋 政司

・含銅冷延鋼板の再結晶組織と集合組織に及ぼす C, Mn および熱処理の影響

川鉄技研 小西 元幸

鉄鋼の再結晶過程を解明するうえで, 興味ある基本的な実験事実がいくつか発表され質疑応答が行なわれた.

新 入 会 員 名

(昭和 48 年 9 月 1 日~9 月 30 日)

正 会 員		新 入 会 員	
佐藤 栄次	新日本製鉄(株) 基礎研究所	小林 経明	〃 和歌山製鉄所
村田 朋美	〃 〃	田中 勇次	〃 〃
吉田 育之	〃 〃	小島 荘一	〃 小倉製鉄所
田中 新	〃 八幡製鉄所	大橋 善治	川崎製鉄(株) 技術研究所
吉村 博文	〃 〃	角戸 三男	〃 〃
倉元 俊一	〃 大分製鉄所	成木 朝雄	〃 〃
栗田 興一	住友金属工業(株) 中央技術研究所	大木 継秋	(株)神戸製鋼所 中央研究所
浜田 勝成	〃 〃	滝川 博	〃 〃
		大橋 建夫	(株)日本製鋼所
		渡辺 十郎	〃 〃 室蘭製作所
		樋口 貴雄	(株)中山製鋼所
		永井 正夫	山陽特殊製鋼(株)
		中沢 一	東京工業大学
		船水 康宏	北海道大学工金属
		筏 祥児	大同鋼板(株)
		今葦倍正名	新日本製鉄(株)
		西村 輝彦	〃 〃 君津製鉄所
		宇都宮又市	〃 〃 八幡製鉄所

市岡 正章	岡谷鋼機(株)	福岡 一郎	電気化学工業(株)	工学部, 冶金
岩崎 義光	川崎製鉄(株)	町野 憲明	海外新聞普及(株)	三島 良直
	技術研究所	村川 茂	(株)鉄興社	東京工業大学 大学院
岩永 利清	尼崎製鉄(株)	学 生 会 員		工学部, 金属
馬野 周二	技術士	後藤 則夫	早稲田大学	山内 忠晴
上月 孝雄	東海電極製造(株)		大学院, 理工学研究科	北海道大学
高橋 浩一	興国金属工業(株)	土川 孝	九州工業大学 大学院	大学院, 工学部
常陸 義朝	大同製鋼(株)	前山 智	大阪大学 大学院	外 国 会 員
	中央研究所	山田 光矢	大阪大学 大学院	鄭 用 学 (大韓民国)

(昭和48年10月1日~10月31日)

正 会 員		伊東建次郎	日新製鋼(株)	鉄冶金学専攻
加賀 正夫	川崎製鉄(株)		周南製鋼所	堀 隆一
	千葉製鉄所	大八木 勇	日本サーモケミカル	大学院工学研究科
田中 和精	〃		(株)	冶金学専攻
永田 勝彦	〃	熊倉 重博	旭硝子(株)	梶間 透
小野 弘路	〃	小泉 義孝	松菱金属工業(株)	東京大学 大学院
安達 晃	新日本製鉄(株)	坂井治三郎	新日本カーボン(株)	金属工学専攻
	広畑製鉄所	三野 重雄	大同製鋼(株)知多工場	齊藤 裕之
赤瀬 繁之	〃製品技術研究所	下地 光雄	北海道大学理学部教授	東北学院大工学部
高橋 靖雄	〃	田丸 成雄	日本グランコールド	機械工学
尼崎 順三	住友金属工業(株)		研究所	重松 敏明
	和歌山製鉄所	半田 慎治	東洋鋼板(株)下松工場	九州工業大学 大学院
荒川寿太郎	(株)神戸製鋼所	学 生 会 員		宋 森弘
	製品開発部	浦川 善友	熊本大学	慶応義塾大 大学院
小笠原 実	本田技研工業(株)		工学部, 金属工学科	博士課程
	第三機械課	松本 隆男	〃	西尾 賢一
坂本 政文	〃	三谷 和久	〃	名古屋工業大学
雨宮 陽三	ダイハツ工業(株)	吉岡 正弘	〃	材料開発研究施設,
	池田工場	日名 英司	京都大学工学研究科	大学院修士
				宮坂 直樹
				東京大学 工学系大学
				院 冶金学専門修士
				外 国 会 員
				Commodities Research Unit Ltd.,
				Research Assistant CRU. (England)

(昭和48年11月1日~11月30日)

正 会 員			針布製造所	(株)
岡根 幸司	住友金属工業(株)	佐嶋 信男	海外新聞普及(株)	吉井 一夫
	中央技術研究所	清水 国彦	新日本製鉄(株)	住金溶接棒(株)
松尾 享	〃		光製鉄所	学 生 会 員
山岡 秀行	〃	白田 昌敬	協同油脂(株)	納富 啓
阿部 巖	太平洋金属(株)	津崎 俊吾	日本橋梁(株)	九州工業大学 大学院
	直江津工場	名取 宏	石川島播磨重工業(株)	金属工学専攻
藤巻 一光	〃		横浜第1工場	安田 素郎
和田 隆一	〃	中村 康一	東京鉄鋼(株)小山工場	京都大学 大学院
原田 信男	川崎製鉄(株)	新野 選	日本鋳業(株)	工学研究科
	技術研究所	西野宮 守	日本高級金属工業(株)	城阪 欣幸
山崎 信	〃	西村 真幸	三菱化工機(株)	名古屋大学 工学部
石井 正夫	東北大学	羽田 忠義	松菱金属工業(株)	鉄鋼学科
	選鋳製錬研究所	平岡 昇	(株)日本製鋼所	青木 伸秀
石川 志郎	(株)中山製鋼所		室蘭製作所	モハマッド・バハーザグロール
今村 一之	日立造船(株)桜島工場	福迫 達一	大阪大学 工学部教授	東京工業大学 金属工学科
岡崎 謙二	九州工業大学	三上 俊夫	ユシロ化学工業(株)	外 国 会 員
	金属加工学教室	宮本 学	(株)神戸製鋼所	崔 桓 鎔 (大韓民国)
笠原 和男	金属材料技術研究所		中央研究所	申 致 載
木田 由三	金井重要工業(株)	横田 頭三	日本サーモケミカル	金 炳 珩
				Mr. Alejandro Espriu M., (Mexico)
				維 持 会 員
				理研ピストリング工業(株)